

【参加報告】国連食料システムサミット4年後ストックテイク会合（UNFSS+4）

- 日時：2025年7月27日（日）～29日（火）
 - 場所：国連アフリカ経済委員会会議場（エチオピア・アディスアベバ）
 - 参加者：政府代表（首脳級・閣僚級含む）、国際機関（FAO・IFAD・WFP等）、農業者団体、民間企業など3,000名超
 - 目的：2030年までのSDGs達成に向けた「行動の10年」の一環として、食料システムを変革するための行動を導くための方途を議論し、①進捗の振り返り、②パートナーシップとコミットメントの追求、③資金動員・投資の促進を行う。
- ※ 日本（農水省）からは、窪田国際食料情報特別分析官以下、計4名が参加。



1. 本体会合

- 全体を通じて、アフリカ各国や国際機関等から、食料システムに関する現下の課題（小規模農家のバリューチェーンへの関与、若者・女性の活躍、気候変動対策、科学技術・イノベーション、資金ギャップ等）に対処するために、マルチステークホルダーの取組や資金動員を益々推進していくことの重要性が共有された。
- 日本は、開閉会式、全体会合、閣僚級会合、ハイレベルパネル等に参加。窪田分析官から、科学技術・イノベーションに関するハイレベルパネルにおいて、「**みどりの食料システム戦略**」や「**日ASEANみどり協カプラン**」、「**グローバルみどり協カプラン**」を紹介。食料システムの変革に万能の解決策は存在せず（no one-size-fits-all solution）、国・地域の特性に根差した技術・イノベーションが重要である旨発言。



【参加報告】国連食料システムサミット4年後ストックテイク会合（UNFSS+4）（続き）

2. サイドイベント

- 日時：7月27日（日）14:00-15:30
- 演題：「グローバル課題解決に向けた科学技術イノベーションのローカルコンテキスト適用：国・セクター横断的な農業・食料システム変革アプローチからの教訓」
- 主催：国際農研（JIRCAS）、エチオピア農研機構（EIAR）
- 基調講演として、窪田分析官から、食料システムの変革に万能の解決策は存在しない旨とともに、「**みどりの食料システム戦略**」等に基づく日本の取組例として、**環境負荷低減の取組の「見える化」（みえるらべる）**、フィリピンにおける**農業分野の二国間クレジット制度（JCM）**等を紹介。
- この他、JIRCAS（グリーンアジア・プロジェクト）、味の素（キャッサバの循環型農業）、Greenin社（e-Kakashi）等のプレゼンがあり、各国聴衆との意見交換が行われた。



3. その他

- モクタル国際原子力機関（IAEA）事務次長及びフェンFAO/IAEA合同食料農業原子力技術センター長、並びに、ルーカス国際生物多様性センター（Bioversity）事務局長及びワンジル国際生物多様性センター・国際熱帯農業センター（CIAT）アライアンス・アフリカ地域長との間でバイ面会を実施。
- その他、ガルニエリ国連世界食糧計画（WFP）事務局次長との間で立ち話を実施。



Bioversityとの面談の様子